

実務者検討委員会(第9回)

日時：令和元年12月16日(月) 13:00～14:50

場所：中央合同庁舎4号館共用443会議室

【議事】

- 1、利活用モデルの確立に向けて(2回目)
- 2、長期保存・長期利用保証について(2回目)
- 3、ジャパンサーチ正式版公表に向けて
- 4、各分野・地域におけるつなぎ約の役割と分担の明確化について
- 5、ジャパンサーチの運営体制の考え方について
- 6、令和元年度(3ヶ年総括)報告書(案)について

※ 検討委員会終了後、次回日程(令和2年度3月頃を予定)及び令和2年度に実施する産学官フォーラムについて周知した。

【議事録】

- 1、利活用モデルの確立に向けて(2回目)
 - アーカイブ機関の所蔵写真の公表の判断に当たっては、裁判例を参考に各考慮要素をポイント計算することだが、考慮するまでもなく公表することができない項目もあるのではないかと(国立美術環本部事務局情報企画室室屋室長)。
→ 文化的、宗教的な観点からそのような項目もあるのかもしれないので、今後も広く意見を聞きながら検討していく。(東洋大学生員准教授)
 - 匿名化の技術(マスキング等)については、技術の進歩もあることから頻繁に見直しつつ、継続的な議論が必要。(筑波大学杉本教授)
 - 歴史地図を扱うといつも問題になるが、被差別部落地域をマスキングしてしまうとなぜ隠したのかが理由が特定されやすいため、どのようにしたらよいか悩んでいる。(国立文化財機構今井課長)
 - 今後必要な取組としてベストプラクティスの共有とあるが、むしろ失敗事例のようなワーストプラクティスを示す(ことができるかは分からないが)ことが重要ではないかと(国立美術館本部事務局情報企画室室屋室長)。
 - このガイドラインが一人歩きして点数さえ満たせばよいといたことになるのは危険だと考えているところ。(国立美術館本部事務局情報企画室室屋室長)。

- 加算方式ではなく、項目によっては乗じたり、特定の項目の場合は考慮するまでもなく公表不可とするなど、もう少し複雑な計算が必要かもしれない。(東京大学渡邊教授)

2、長期保存・長期利用保証について（2回目）

- デジタルアーカイブを物理的に永続的に保存することが社会にとって価値があることを周知することをガイドラインに盛り込むべきではないか（東京大学渡邊教授）
- クラウドを活用したデジタルデータの保存も重要ではないか。（「デジタルデータ保存」と「安定稼働できるシステム」双方に関連していると考えられる）（東京大学渡邊教授）
- 技術に関する事項がアウトオブスコープになっているため、そこも捉えるべき。（筑波大学杉本教授）
- このガイドラインで重要なのはデジタルアーカイブのメンテナンスをどうすればよいかということ。バックアップはメンテナンスの一部分にすぎない。そのため、保存のポリシーを明確に定め、共有すべき。国に共有基盤づくりを期待したい（筑波大学杉本教授）
- つなぎ役が何を示すのかのもう少し具体的な言及が必要（筑波大学杉本教授）。
- メタデータについて、記述すべき対象等を特定することが必要。（筑波大学杉本教授）
- ハードル等をあげると中小機関が萎縮するので、そうならないようにその点についても検討することが必要。（筑波大学杉本教授）
- 長期保存・利用保証をどうするのか、時系列等（いつ、どのくらいの費用が発生するかなど）で示すとイメージできるのではないか。（ガイドラインに記載されていることに）気づいてないと危険だよというガイドラインの必要性を示すとよい（知的資源イニシアティブ山崎理事）

3、ジャパンサーチ正式版公表に向けて

- コミュニティサイトについては、クローズをデフォルトとし、オープンにしたい場合に申請するというにすれば利用しやすくなるのではないか。（東京大学渡邊教授）

○ サポーター制度は、条件を厳しくしすぎると利用してもらえなくなるのである程度柔軟な条件で対応すべき。また、全国展開して利用者を増やすべきだろう。(知的資源イニシアティブ山崎理事)

○ コミュニティサイトは特定に人に対して共有するという性質のもので、その範囲であれば特定の作品等へのアクセスを認め、ギャラリー内でのアップロードを認めていくということにすれば利活用の幅が広がるのではないかと考えているがどうか。(国立美術環本部事務局情報企画室室屋室長)。

4、各分野・地域におけるつなぎ約の役割と分担の明確化について

○ つなぎ役にはメリットがなく、敷居が高いため、検討する必要があるだろう。(知的資源イニシアティブ山崎理事)

○ つなぎ役を期待しているが、つなぎ役にはなっていないくてコンテンツ提供だけをしている機関に呼び名を付けられないか(筑波大学杉本教授)

5、ジャパンサーチの運営体制の考え方について

○ 3年延長ではなく、半分の1年6か月にして、少しずつメンバーを入れ替えるというのでもいいだろう。新しいメンバーを入れるのであれば、空間情報系(地図情報関連)の人を入れるといいだろう。(東京大学渡邊教授)

○ サポーターで活躍されている方をメンバーとして入れるなど、新しい視点を取り入れて実施していくということもいいだろう。(知的資源イニシアティブ山崎理事)

○ デジタルアーカイブセンターや長期利用保存の議論等はより高いレベルで議論する必要があるため、これを機に役割分担の議論が必要だろう。(筑波大学杉本教授)

○ 研究データ等の連携も進めるべき。(筑波大学杉本教授)

○ ひとつは利活用型のコミュニティーの参加やデジタル教育の関係者の参加、もうひとつは民間企業等の参加も重要ではないか(東洋大学生員准教授)

6、令和元年度(3ヶ年総括)報告書(案)について

○ 報告書をどのように周知していくかの工夫が必要。報告書はページ数も多いので、頭から読む人はいない。気になるところから読むので、Q&Aとか、索引等

を工夫することが必要。(知的資源イニシアティブ山崎理事)

- この3年でどのようなことができるようになったのかを記載すべき。なにより元気が出る(ママ)報告書にしてほしい。(筑波大学杉本教授)
- 諸外国の事例が削られているが、ヨーロッパで4月にデジタルの著作権関係の指令が出たところなので、触れておいた方がよいのではないか。(東洋大学生員准教授)

以 上